



肺の生活習慣病!?
放置は厳禁、重症化につながります!

COPD(慢性閉塞性肺疾患)って どんな病気?

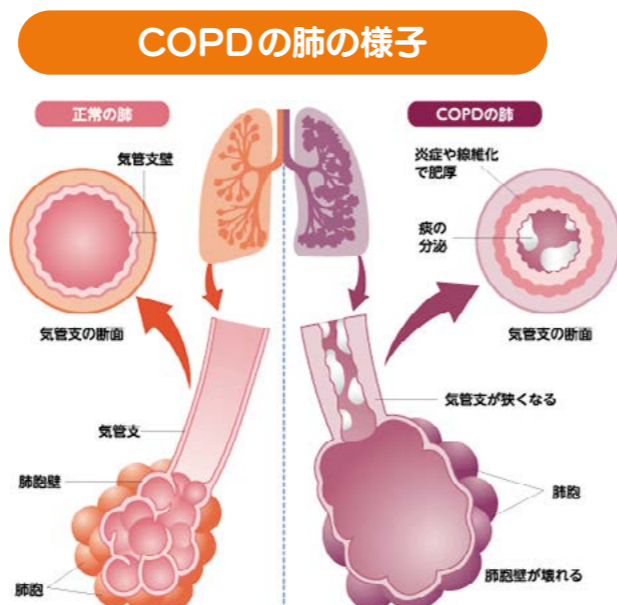
タバコが主な原因となるCOPD(慢性閉塞性肺疾患)は肺の生活習慣病とも言われており、健康で長生きするためには、ぜひ知っておきたい疾患のひとつです。そこでくわしいお話を呼吸器内科の山口 昭三郎先生にお聞きしました。

Q. 肺はなにをしているところですか。

A. 肺は呼吸を行う臓器です。酸素を血液に取り込み、体内で作られた二酸化炭素を外に排出します。血液と空気の間でガス交換が行われる場所を「肺胞」と呼び、鼻や口から肺胞までの通り道を「気道」と呼びます。

Q. COPD(慢性閉塞性肺疾患)とはどんな病気ですか。

A. COPD(慢性閉塞性肺疾患)では、気道が炎症を起こして狭くなったり、肺胞が壊れたりします。そのため空気の出し入れがうまくできなくなり、息切れや咳、痰が続くようになります。特に息を吐くのが苦しくなり、呼吸がしづらくなるのが特徴です。



出典：環境再生保全機構ERCA(エルカ)HPより
(<https://www.erca.go.jp/yobou/zensoku/copd/about/02.html>)

Q. COPDになると、どのような症状がありますか。

A. 主な症状は「咳」「痰」「息切れ」これらの症状が徐々に現れ、特に階段を上った時の息切れは初期のサインの可能性がありますが。年齢のせいと放置されやすいため注意が必要です。



Q. COPDの主な原因は。

A. COPDの最大のリスク要因は喫煙です。喫煙者の15-20%がCOPDを発症するとされ、長年の喫煙で肺がゆっくりとダメージを受けていきます。受動喫煙もリスクになります。

Q. COPDの治療法にはどのようなものがありますか。

A. 治療は禁煙が第一歩になります。それに加える形で薬物療法や運動・栄養療法を行っていきます。インフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチンを接種することにより気道感染症を予防することも、残された肺を守るのに有効です。呼吸不全に至った場合には、酸素療法や人工呼吸器による治療を行います。

Q. 予防法はありますか。

A. ほとんどのCOPDは禁煙によって予防可能とされています。またCOPDになってからでも、禁煙は、息を吹きだす力の低下を抑制し、増悪頻度を減少させ、より長生きすることが期待できます。



呼吸器内科 部長
やまぐち しょうざぶろう
山口 昭三郎

山口先生
から
ひとこと

進行性の病気で、残念ながら完治は困難です。COPDは徐々に進行し、一度壊れた肺の組織は元には戻りません。ただし、早期発見と治療によって進行を抑えることは可能です。

指摘された時には、習慣を切り替えて禁煙していただければと思います。